

広瀬川レポート 仲ノ瀬橋会場



NPO法人
都市デザインワークス
左)田川浩司さん 右)豊嶋純一さん

●普段の活動と広瀬川との関わりは?

これまでの都市づくりは、主に行政と開発事業者等によって進められてきましたが、都市が抱える課題も多様化し、分野を越えた協働が不可欠になっていました。都市デザインワークスは、一人ひとりの「こんなまちにしたい」という想いを集め、ビジョンを描いたり、実現に向けたアクションをコーディネートしながら、市民主体のまちづくりを進めています。今年で法人設立20周年を迎えますが、私たちが力を注いでいるのは、広瀬川とその両岸を含めた流域一帯を、仙台のまちの個性として、市民も観光客も強く実感できる場としていく“せんだい・セントラルパーク構想”です。

仙台城跡のそばを流れる広瀬川は、良くも悪くも左岸の都心市街地と、右岸の博物館や美術館などの文教地区を、大きく分け隔てていると言えます。しかし2015年に地下鉄東西線が開業すると、アクセス利便が向上し、西公園や青葉山を訪ね、併む人が現れてきました。まるで两岸の距離が近づいたように感じますが、大橋にかけては坂道がギリギリといふ声も聞こえますので、居心地がよく歩きたくなる環境に、広瀬川が大きく貢献することが期待されています。

私たちは“せんだい・セントラルパーク構想”を掲げ、「巡る」「併む」などのテーマを軸に、様々な体験プログラムを実践しています。例えば、歩いて巡ること自体を楽しめるよう、河岸段丘の上町段丘に位置する県境前をスタートし、わずかな地形にも焦点を当てながら下町段丘へと下って広瀬川を目指す「ガイドツアー」や、知的好奇心や創作意欲をくすぐるような、ものづくりワークショップやクラフトマルシェなどの出店を集めた「プレジャーマーケット」を、国際センター駅・青葉の風テラスを中心に定期的に開催しています。

反響が最も大きかったのは、2017年7月に大橋の下流左岸の水辺に設けた「伊達な川床」で、水際から水面に張り出す形で仮設のフロアを設置し、食を楽しむレストラン席として演出しました。近年はフィンランド式サウナの企画で、広瀬川に入水して温まった身体を整える体験を通して、まちづくりについて立場を越えた語り合いをしました。

(詳しくは<https://sendai-cp.net>を参照)

●清掃活動は初めてだと思いますが、会場担当をやってみてどうでしたか?

まず、広瀬川を愛する多くの方々と一緒に清掃するということが、素直に楽しかったです! 河川愛護会や近隣住民の自主的な清掃活動が担ってきていると思いますが、高齢化などで維持が難しい地域も出てくると予想されます。プロジェクトを通じて、自らの地域に関心や愛着を抱く市民が増えることに期待しています。ゴミが無くなることで水辺の景観が良くなることは、まちづくりの側面からも重要ですし、清掃活動の普及に私たちも寄与できればと思います。

企業さんの参加が大部分を占める活動と聞いていたのですが、私服で参加されている方がほとんどで、ご家族も連れて参加されるなど、皆さんリラックスしていたように思います。会場を担当するからには、もっと楽しく過ごしていただける工夫を考えていきたいです。

●広瀬川1万人プロジェクトの今後の展開について考えはありますか?

例えば「健康経営」にも広瀬川を活かせるのではないかと考えています。CSRの一環としてプロジェクトに参画されている企業もあると思いますが、慈善活動で心にゆとりを持って、爽やかな風が吹く川で過ごして副交感神経が刺激され、ちょっとした運動になる。この有意義な時間が、一人一人のウェルビーイングの実現に寄与する可能性があります。



●現在、多くの会場が飽和状態になっているのですが、解決するにはどうしたらよいでしょうか?

開催日を春と秋の二回に限らず、「(仮)広瀬川クリーンアップ・ウィーク」のような形で実施日を増やすと、参加者が分散され、かつ門戸が広げられるのでトータルの参加者数は増える可能性があるように思います。(その分、会場担当の負担が大きくなることは避けて通ませんが)

夏の時期は夕方の時間帯に設定して、ゴミ拾い後に「水辺で乾杯!」とセットにする形で、ビールでも飲んでいただぐと最高ですね。率先して会場担当します!!



2021年度 活動報告 広瀬川 1万人プロジェクト



第30回
広瀬川流域一斉清掃
2021年10月2日(土)
参加者数合計 1,073人
ゴミの数合計 208袋

アイハート広瀬川
広瀬川衛生プラン

お問い合わせ

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会事務局

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンターLC114

TEL | 080-7004-4932 E-mail | info@hirosegawa-sendai.org

FAX | 022-778-2683 HP | <https://www.hirosegawa-sendai.org>

阿武隈川・名取川における洪水の歴史と治水対策

◆施設では守り切れない大洪水は必ず発生する、

仙台河川国道事務所副所長

日時 / 2021年12月10日(金)

◆阿武隈川・名取川の水害の歴史

平館淳一氏

写真1 昭和61年8月洪水の様子



阿武隈川水系ではこれまでおよそ80年間で20回の洪水が発生しましたが、河川整備の進捗に伴い浸水家の被害は減少してきました。しかし令和元年東日本台風は既往最大の雨量となり大きな被害が発生しました。(写真1)名取川水系では昭和25年8月洪水が既往最大であり、3か所で堤防が決壊して仙台市愛宕付近から宮沢橋付近にかけて、家屋の流出等の大規模な被害がありました。次いで昭和61年8月洪水は下流部分のほどんどで浸水がありましたが、堤防の決壊ではなく内水氾濫でした。61年8月洪水は下流部分のほどんどで浸水がありましたが、堤防の決壊ではなく内水氾濫でした。

台風では、名取橋の観測点で氾濫危険水位までとなりましたが、釜房ダムで流入量の半分ほどをため込みよう。操作したことで、60cm

とおり、方針の実現に向けた概ね30年間の具体的な計画として河川整備基本計画(名取川3.800m³s⁻¹、広瀬川2.800m³s⁻¹)としています。

◆施設では守れない大洪水は必ず発生する

堤防をつくることも有効な手段ですが、堤防を高くし過ぎると洪水時の水位が上がりがります。単に堤防高を上げるだけでなく、河道の掘り下げや拡幅で流れの断面を増やすなどの整備もあわせて行っています。旧荒川ほど河川の水を下げました。

集中豪雨に関する全国統計では平成22年(31年の10年間の平均年間発生回数は、統計期間の最初の昭和51年~60年と比べて、時間雨量50mm以上と80mm以上の集中豪雨がそれなりに増えていました。

それなりに頻度が増えています。

氾濫危険水位を超える河川の数は平成26年から平成30年にかけて毎年増えており、年間雨量50mm以上と80mm以上の集中豪雨がそれなりに増えていました。

それでも、平成22年~31年の年平均回数が平成2年~11年と比較し約2.4倍となっています。IPCCの気候変動シナリオにおける2°C上昇相当では降雨量約1.1倍



写真2 名取川と広瀬川合流点付近の荒川調整池

量約1.2倍、洪水発生頻度約2倍と想定されています。

今年度より警戒レベルとともに「避難行動も変更されました。洪水予報の基準となる河川水位が避難判断水位(警戒レベル4相当)では、避難時間のかかる高齢者や園児等の避難を開始し、避難指示(警戒レベル3相当)で、この背景を受け、流域治水への転換が図られています。

流域治水は流域のあらゆる関係者の協働がキーワードで、集水域や河川区域だけでなく、氾濫域も含めて被害を軽減する取り組みです。流域治水の実現に向けた概ね30年間の具体的な計画として河川整備基本計画(名取川3.800m³s⁻¹、広瀬川2.800m³s⁻¹)としています。

これまで、多くの工事やリスクの低いエリアへの居住誘導、民間による雨水貯留浸透施設の整備も進められ、様々な取り組みを今後検討し、地域を取り組みのみならず、ため池や利水ダムの貯留水を事前放流することによる治水利用、住まいの方の工夫やリスクの低いエリアへの居住誘導、民間による雨水貯留浸透施設の整備も進められ、様々な取り組みを今後検討し、地域特性を踏まえた流域治水対策を展開します。

流域治水の例として仙台市では、雨水を

時に貯留し、時間をかけて川に流す「雨庭」

に取り組んでいます。建設中の青葉山公園セ

ンターと隣接区域に浸透池や浸透性のある

池、透水性舗装の歩道などを整備し、雨水

を地下に浸透させることで、この

エリアで保水をは

かっています。洪

水時に広瀬川への

流出を減らす効

果のほか、ヒート

アイランド現象の

緩和や生物の生

息空間の創出な

どの効果が期待さ

れます。(図1)

個人や家庭では、

ハザードマップやテ

レビのデータ放送

による雨量・水位

情報を活用する

ことも重要です。家族からの呼びかけがきっかけとなり避難するという事例が多い事から、逃げなきやコールというアプリが開発されました。住居エリアを登録することで、その場所の災害情報が自動で得られ、家族に避難を呼びかけることができます。他にも町内会版タブレットマイライイン(事前防災行動計画)や家族ごとのマイライイン、小学生用の逃げキッドなど様々なツールが開発されていますので、ぜひ活用してください。

◆仙台河川国道事務所の取り組み

国土強靭化のための三か年緊急対策として、名取川では洪水が発生した場合に、危険性の高い区間を中心に河道掘削等の工事を行っています。仙台東部道路下流左岸の日辺地区と広瀬川合流点右岸の中田地区では樹木伐採と河道掘削、広瀬川広瀬橋下流の長町地区では堤防強化の工事を令和3年までに終えました。また、名取川には民地が多く、そのようなところに樹木が繁茂し、治水上の安全性を疑問視する意見が多くあります。だが、令和2年より住民の方々の協力によって、堤防地の樹木伐採を行いました。対策後は維持管理も行なうほか、他地域でも実施すべく、用地調査を行っています。

阿武隈川では令和元年東日本台風を受け、阿武隈川緊急治水プロジェクトを立ち上げました。関係機関と連携して浸水被害の減を目指すもので、令和2年度から5か年で約70万立方メートルの河道掘削等を進める予定です。また、阿武隈川水系内川、新川、五福谷川で破堤した18か所については、管理者である宮城県から要請があり、応急復旧工事を国が権限を代行して実施しました。その後の本格的な復旧工事についても知事からの依頼があり権限代行にて実施しています。

◆おわりに

施設では守れない大洪水は必ず発生します。これまで、大丈夫(安心)だったから、これからも、大丈夫(安心)ではありません。ご自身の身を守るために大切な人を守るため、最善の行動は何かを知つておいてください。

広瀬川で調べるごみ拾いを試行しました

近年、海洋プラスチックごみ問題が注目されるようになり、海の汚染や生物・生態系への深刻な影響が懸念されています。陸上で作られたプラスチック製品が河川などから海に流出していることから、河川での清掃活動も環境保全のための大切な活動のひとつです。

また、全国のさまざまな河川では清掃だけでなくごみ調査も行われています。その中にはレジ袋の有料化によりレジ袋のゴミが減っているという報告もありました。

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会では毎年流域一斉清掃を行っていますが、広瀬川でもゴミの傾向を調べてみてはどうかということで、まずは運営会議で調べるごみ拾いを試行してみることにしました。

ごみの調査方法については、全国川ごみネットワークの活動である「水辺のごみ見つけ!」を参考にしました。(https://kawagomi.jp/mikke)

この調査は、「生き物や自然界への影響を及ぼすごみの散乱状況を全国規模で把握し、ごみの散乱防止対策、水辺の環境保全活動へ役立てること」を目的として多くの地域・河川で実施されています。方法は簡単で、1)飲料ペットボトル 2)レジ袋 3)カップ型飲料容器の個数を数えるというものです。(調査期間4月1日~11月30日、2020年は22都道府県で実施されました)

◆実施日 2022年2月24日、28日
◆場所 広瀬川大橋の上下流



実施概要 2022年2月24日、28日の2回、各回3名で実施、時間40~50分 3名でごみ拾いを行い、うち1名が記録用紙に数を記録



日付・場所	ペットボトル	レジ袋	カップ
2月24日 国際センター駅~仲ノ瀬橋	7	4	0
2月28日 大橋下流	5	8	4

2/24

- 多かったごみ…吸い殻 20 / ボール 16 / マスク 4
- 秋の清掃では草木が繁茂していて入れないポイントに多くのゴミがあった。
- コンビニから遠いのでカップ型のゴミはなく缶コーヒーが多かった。
- ラクロス部、野球部が練習しているのでボールが多かった。

2/28

- ゴミ袋…3つ
- ゴミが溜まっている土場所が立ち入りできないように囲われていて、そこから風で飛ばされて周辺に散乱している。

実施後の感想など ごみ調査について

- 記録してゴミを拾うのは子どもの集中力を上げる効果があるのではないか。
- 「水辺のごみ見つけ!」のように目的がはっきりしていると、そればかりに目をとられ他の小さいゴミを見逃すかも。
- ペットボトル、レジ袋、カップの個数を記録するだけなので調査は簡単に実施できた。
- 会場のゴミの傾向にあったターゲットを設定してもいい。
- 街中の標準的なゴミの傾向と比較することで川ごみの特徴がわかるかも。

2月の試行だったため、次のような感想もありました。

- 冬はゴミを見つけやすい
- 冬場は体を動かすことが少ないもので良い運動になる

実際にごみ調査を行ってみて、一斉清掃のときに何組かで調べることもできそうな感じがしました。
今後、運営会議で検討していきたいと考えています。

